



くさか景子の



ちよっ

よろしいですか！

と

毎月発行 県政情報紙 2010年10月 Vol 41

日本でいちばん大切にしたい会社



チョークの会社 日本理化学工業(株)を訪問



従業員約 50 人のうち、7 割が知的障がいをもった方々で占められており、ダストレスチョーク(粉の出ないチョーク)を製造しています。この会社の創業者の大山会長に話を伺いました。50 年前、近くの養護学校の先生が生徒 2 人の就職を頼みに来られ、雇ったことがきっかけです。お茶を運んでくださった女性がその時の生徒の1人林さんでした。もう 66 歳です。「ようこそいらっしゃいました。」と挨拶



大山会長から製品の説明を受ける

されました。長い長い歴史を感じ、胸がジーンとしました。

会長にご苦労されましたねとお声をかけると、人を工程に合わせるのではなく、工程を人に合わせるのだとおっしゃいました。あるお坊さんのお説教に、究極の幸福とは、①愛されること②ほめられること③人の役にたつこと④人

大山会長から製品の説明を受ける

工場内を見学すると、色別の容器やおもり、砂時計があり、数字や字が読めなくても仕事の段取りができるよう工夫されており、手際良く、正確に、真面目に、生き生きと楽しく仕事をしていました。

神奈川県企業の障がい者雇用率は、全国 34 位と低く、日本理化学工業のような会社はまれです。まだまだ、障がい者を雇い入れることができず、高額な罰金を払っています。その理由としては、障がい者への理解が進まない、職種が合わない、指導するジョブコーチの余裕がないなどの課題を抱えています。県としては、課題に対する支援を進めるとともに、少しでも障がい者が働ける場の提供ができるよう私は、強く提案していきます。



手際よく、仕事をこなす社員

本の紹介

「日本でいちばん大切にしたい会社」I II

あさ出版

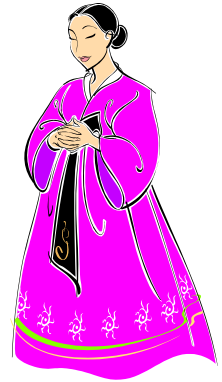




福岡 人権の旅！

筑豊地区 強制連行フィールドワーク

在日コリアンの歴史と思いを伝える「語り部・ぺさん」は、あの人気俳優ペ・ヨンジュンさんの親戚だそうです。在日朝鮮人2世として北九州に生まれたぺさんのアボジ(父)は、1940年、北九州の八幡製鉄所に連行され、過酷な労働に従事していました。朝鮮人強制連行は、戦時下の労働力不足を補うため、1939年～1945年の間に、67万人以上の朝鮮人が日本国内に強制連行されました。そのうち筑豊へは、15万人が連れて来られました。そして民族差別的な劣悪な待遇と過酷な強制労働によって多くの人々が死傷しました。



筑豊の各地に放置されていた遺骨を収集し、2000年、納骨追悼堂「無窮花堂 ムグンファ」が建立されました。私たちは献花し、お参りました。その後は、さらに旧住友忠隈炭鉱ボタ山麓の無縁墓地に登りましたが、墓地とは名ばかり、草の中、墓標も何もない土に線香をあげて、手を合わせました。

私たちがほとんど知ることのない戦争中の悲劇、戦後半世紀以上たった今も、真相究明で判別された遺骨は少ないとのこと。歴史の重みを感じる旅でした。



無窮花堂 ムグンファ

民主党議員控え室で



くさか景子のほっとコラム

県議会での民主党会派入り！



9月議会の初日、9月13日をもって私は、「民主党・かながわクラブ」に所属しました。今回、同じ会派だった徳安議員、1人会派だった村田議員と3人で入り、民主党は32人となり、自民党の38人に次ぐ大会派となりました。自席は学校の職員室の一席のようで、今までの少数会派での静かな個室とは違い、電話の音が飛び交い、さながら新聞社の席のように書類が崩れ落ちそうな机に突っ伏して仕事している議員たち、絶えず職員やお客さんが出入りする室内です。活気があり情報も多く、会議や話し合いも多い職場。さあ、大会派に入ったメリットを生かし、大いに発言力を高め、仕事をしようと考えている私です。